# 図2 仕事の状況 避難前と同じ仕事 をしている 34.2% 今、仕事をして いないし、今後も 予定はない 避難前と別の仕事 (正職員)をして 今、仕事をしてい\_ ないが、仕事を探 している 10.9% 村 村の見守り隊で働っ - 臨時・パートで働 いている 9.9% いている 7.0%

# 仕事につい

避難による仕事の変化について

をして 就労への影響が大きいことが考え はない」が25・4%、 る」が10・9%と、震災による 仕事をしていないし、 る」は34・2%にとどまり、 「避難前と同じ仕事をして いないが、 仕事を探してい 今後も予定 今、 今、 仕事

その他 2.5% 収入が増えた\_ 2.5%

月額で2/3くらい。 に減った 9.6%

あまり変わらない 34.1%

(図5) また、

図3 現在の収入について

33 ・ 5 % と、

の行政区で集まる機会がない」

46・4%と最も多く、

人・知人と集まる機会がない」

収入がほとんどな くなった 26.2%

月額で1/3くらい に減った 11.8%

に滅った 8.7%

を合わせると56・3%の回答があ べて現在の収入が減少」した世帯 収入については、「避難前に比 なかでも、 「収入がほ

これは、震災前に農業に従事して よりも8・5ポイント増えています

3 生活の状況について

多くなっていました。

(図 3)

いた方の回答が4割以上で非常に

どが増えた」 と3割弱の回答があったことから、 変化については、 避難生活で外食が多くなっている 満でした。「外食やコンビニ弁当な い」への回答は25・7%と3割未 食事を作るのが大変」 避難後の食生活・栄養状態の が 43 ・ 1 「以前と変わらな が 29 4 % %と高く、

傾向がうかがえます。

**図** 4

40.0

30.0 20.0

10.0

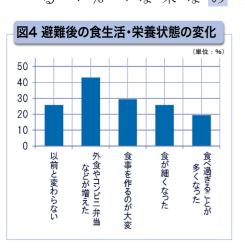


図5 コミュニティの面での困りごとについて

# 村内自宅への帰宅については「何 かがえます。 現在も ほとんど戻らない」が19 度か自宅に戻って

とんどなくなった」は、

前回調査

宅に戻っている」を合わせると、 度か自宅に戻っており、 ると回答しています。 時々戻っている」と「定期的に自 72・4%の世帯が自宅に戻ってい 一方、

6%でした。

(図 6)

ていない」と回答した世帯は1 回答。また、「一度も自宅には戻っ

・ 7 % と

現在は

# る機会が少なくなっている状況も しているため、友人・知人と集ま 持が課題であることがうかがえま コミュニティの面については、「友 元のコミュニティの維 遠隔地に避難 次いで「元 が

▲借上げ住宅入居者対象のお茶飲み会の ようす(川俣地区)

## 今回行ったアンケート調査

#### 調査対象

●世帯主や主な生計維持者

### 配布世帯数

●2914世帯

#### 配布 · 回収方法 ●郵送

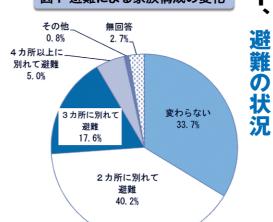
## 回答期間

●平成24年5月22日 ~6月1日

#### 回答数

●61.4%(1788世帯)

# 図1 避難による家族構成の変化



#### の影響 いては、「2カ所に別れて避難」、「3 挙げられています。 ます (図1)。 に別れて避難」をそれぞれ合わせ カ所に別れて避難」、 家族の仕事のこと 現在の住居の狭さ (53・2%) 別れて避難していると回答してい ると半数以上の62・8%が家族が 校 (21・4%) など、 避難による家族構成の変化につ (24・5%) や子どもの学 その理由としては、 50 • 9 % また、 「4カ所以 健康、 放射線 教 が B

およそ6割が帰村希望

向等に関するアンケ

今回の調査では、昨年行ったアンケー

ト内容に加え、

特

の調査項目を追加。

るのは57・7%とおよそ6割の回答がありました。

除染に対して厳しい見方がされる一方、

帰村を希望す

に関心の高い「村の除染」や「帰村に対する意見」について

検討するために「飯舘村民の避難生活実態及び帰村意

ト調査」を行いました。

し、村としての避難生活支援や復興に向けた取り組みを た。村は村民の生活の実態や帰村に向けた意向を把握

飯舘村が避難を開始してからおよそ1年が経過しま

みえてい 別れてい る状況が

育のため に世帯が

▲松川第1仮設 住宅のようす

\*\*マニカン・コの状況の表型や事業

帰村に

結

まとまる